



先輩に続け！中高SSH成果発表会



11日の建国記念の日、R元年度中高SSH成果発表会が開催されました。今年は休日開催ということで、中高の保護者も多数来校し、向陽は終日SSH一色で賑わいました。高校生は、体育館でのポスターセッションや各教室でのディベートを公開。中学生は2年生が環境の授業で行ったエネルギーに関する研究を発表しました。そこには、中学1・3年生・保護者・高校環境科学科の先輩たちも参加し、質疑応答では活発に意見交換をしました。中3生は「先輩に聴く」と題して、理数系分野において今社会で活躍している先輩を講師として招いて授業をしてもらいました。

講師先生は医師の山本章君（向陽中1期生）、大学院生で4月から博物館学芸員となる稗田真也君（向陽中2期生）。山本君は人の命を預かる医師の仕事の責任の重さや、やりがいについて熱く語ってくれました。稗田君は琵琶湖の外来種（植物）についての研究を紹介してくれました。中学時代、自分の研究成果を文化祭の向陽ミュージアムで展示させてほしいと訴え「稗田コーナー」を作ったほど。「中学時代から好きなことに没頭してきた。今も同じ気持ちで好きなことを続けているだけ」と謙虚に語り、好きなことを追究する楽しさを伝えてくれました。今後皆さんが目指すべく、レベルの高い研究のモデルが身近にあることは中高一貫校の大きなメリットです。中学生には自分が成長していくイメージがはっきりと見えたことでしょう。



2年生の研究発表

視覚障害者理解 1年生人権学習

1年生は、20日、県立盲学校から野尻誠先生と植田芳史先生をお迎えして、視覚障害



について学ぶ人権学習を実施しました。視覚障害者でもある野尻先生から自身の体験を交えながらお話を聞き、生徒の素朴な質問に一つ一つ丁寧に答えていただきました。そして、二人組でアイマスクをして校内を歩き、見えないということはどういうことか、そして、どのように介助するのかを実際に体験から学ぶとともに、視覚障害者の方と出会ったときに、声をかけ手をさしのべる行動の大切さを学びました。感想には「視覚に障害があるからこそ見える世界があるんだな」「東京パラリンピックも注目して見たい」

など、視野を広げることができたようです。

2年生は、19日、県聴覚障害者協会の福田美枝子氏と手話通訳の酒匂美也子氏

聴覚障害者理解 2年生人権学習

をお迎えして、聴覚障害について学ぶ人権学習を実施しました。福田氏の手話の同時通訳を聞きながら、耳が聞こえないことによって、日常生活でどんなときに不便を感じるか、そして、その不便をどのように工夫して克服しているかなど身近な経験を通じて話してくれました。感想には「どんなに不安で不便でも不幸と思わない、そんなポジティブな心を持ちたい」など、自分事として深く考えることができたようです。また、簡単な手話講座と筆談や口話など手話以外のコミュニケーションの方法を知りました。改めてコミュニケーションの大切さを学ぶことができた一日でした。